

＜トルコ・サムスン 2017 日本選手団の編成にかかる指針＞
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
2015 年 11 月 15 日策定

はじめに

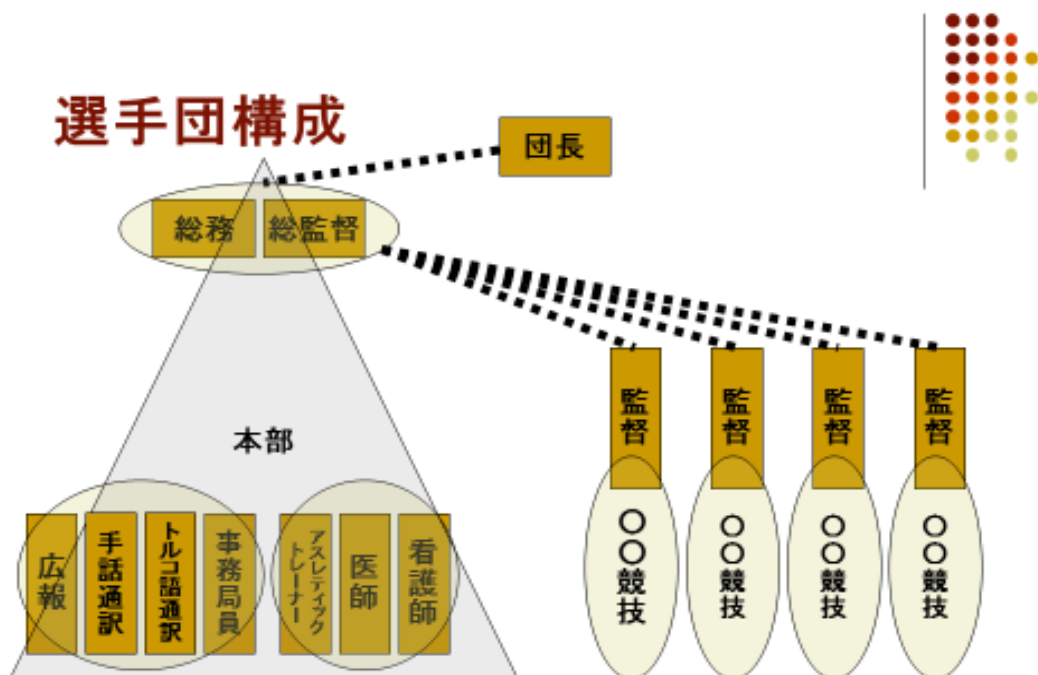
第 23 回デフリンピック夏季大会（トルコ・サムスン 2017）に、
(1)高水準の競技に対応する準備ができていない競技者のみを派遣し、
(2)競技者が持つ能力を最大限に引き出す環境を整えるために、
全日本ろうあ連盟デフリンピック派遣委員会は日本選手団編成にかかる指針をここに策定し、全日本ろうあ連盟 2015 年度第 3 回理事会承認後の 2015 年 11 月 15 日をもって発表する。この指針は厚労省および文科省、日本パラリンピック委員会にあらためて報告されるほか、国民に広く公開されるものである。

各競技団体はこの指針をもとにトルコ・サムスン 2017 でメダルを競えるための選手強化及びチーム編成準備を行う。

選手団編成について

競技上の様々な対応を迅速に行う指示系統の観点から、選手団編成は、団長、総監督、総務とし、それぞれの任務は下記の通りにする。

団長の任務は全日本ろうあ連盟の設ける派遣委員会によって委託された職務に加えて、国際ろうあ者スポーツ委員会(ICSD)事務局、デフリンピック組織委員会(DCOC)事務局との連絡調整を行うことになる。また、ICSD 総会に日本を代表して出席するため、その任務を全うできる立場である全日本ろうあ連盟理事会から理事を配置する。



団 長：選手団を統括し、選手団を代表する。

全日本ろうあ連盟理事・スポーツ委員会委員長

総監督：団長の指示を受けて競技チームを統括する。

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

総 務：団長の指示を受けて本部を統括する。

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

手話通訳：本部での手話-日本語通訳を行う。

トルコ語通訳：本部でのトルコ語-日本語通訳を行う。

広 報：選手団の結団式から解団式まで、写真撮影ないしビデオ撮影を担当する。

事務員：総務の指示を受けて、必要な業務を担当する。英語力ないし国際手話力が求められる。

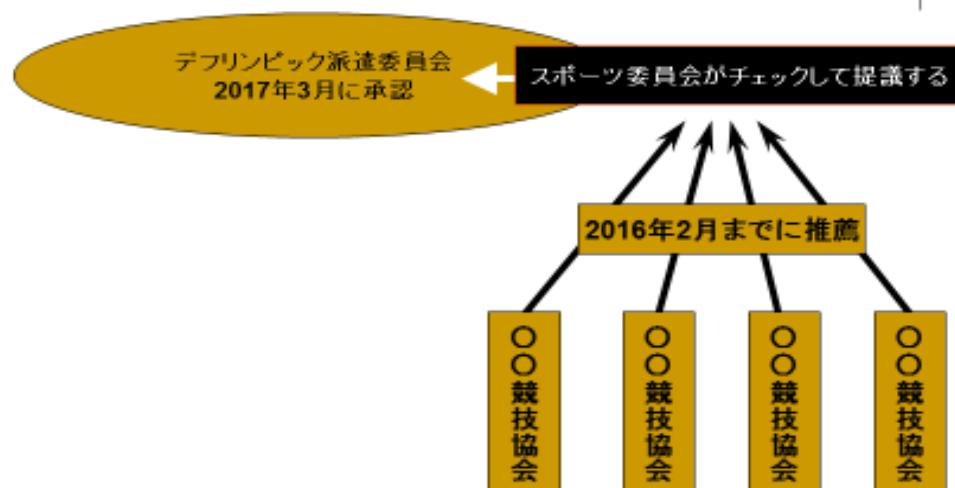
アスレチックトレーナー：医師と連携して、競技チームのコンディショニング活動を支援する。手話力は上級レベルであることが望ましい。

医 師：アスレチックトレーナー・看護師と連携して、選手の体調管理を支援し、必要に応じて医療処置を施す。手話力は上級レベルであることが望ましい。

看護師：医師と連携して、看護活動を行う。手話力は上級レベルであることが望ましい。

監 督：各競技チームを統括する。各競技の規則に熟知し、各競技の TD とコミュニケーションをはかれていることが求められる。

選手決定の手順



選手決定の手順について

下記の選手推薦基準に従って各競技団体から 2016 年 2 月までに候補の推薦を行い、スポーツ委員会で十分に審議した後、2017 年 3 月のデフリンピック派遣委員会において決定する。

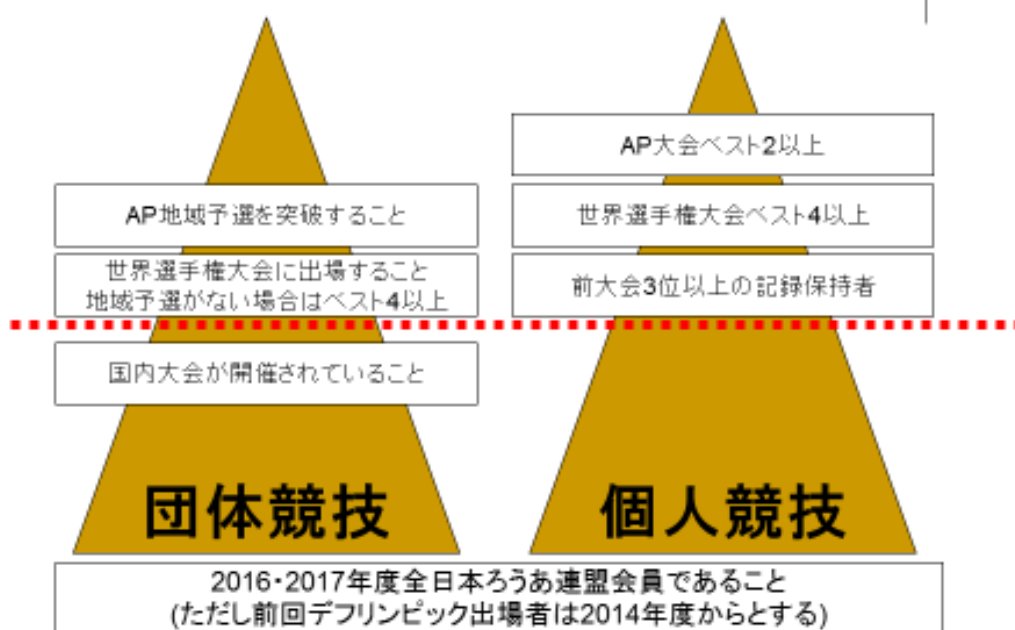
選手推薦基準について

高水準の競技に対応する準備ができていて、メダルの可能性がある競技者のみを「トルコ・サムスン 2017」に日本代表として派遣するために、各競技団体は次に示す推薦基準に基づいて選手の推薦を行う。スタッフについては基準を特に設けないが、各々の役割において専門性を有していることが求められる。

各競技団体は推薦する選手・スタッフがデフリンピックの精神を認識し、かつデフリンピック大会規則及び該当競技規則と世界アンチ・ドーピング規定について理解しており、日本選手団団員として責任ある行動をとることを保証しなければならない。

ICSD 規約により、デフリンピックに参加する聴覚障害を持つ選手団員は ICSD 加盟団体の会員でなければならない。新しく参加する選手は 2016・2017 年度において全日本ろうあ連盟会員でなければならない。前大会（ソフィア 2013）出場選手は、2014・2015・2016・2017 年度において全日本ろうあ連盟会員でなければならない。

選手推薦基準(全体共通)



サッカー競技

- 2016年の世界選手権大会に男子チーム・女子チームとも出場すること
- 男子チームは2015年のAP地域予選を突破すること
- 女子チームは上記世界選手権大会においてベスト4に入ること
- 両方とも、選手推薦基準は日本ろう者サッカー協会の定めるところによる。

バレーボール競技

- 2016年の世界選手権大会男子チーム・女子チームとも出場すること
- 両方とも上記世界選手権大会においてベスト4に入ること
- 両方とも、選手推薦基準は日本デフバレーボール協会の定めるところによる。

バスケットボール競技

- 2015年世界選手権大会に男子チーム・女子チームとも出場すること
- 男子チームは2015年AP地域予選を突破すること
- 女子チームは上記世界選手権大会においてベスト4に入ること
- 両方とも、選手推薦基準は日本デフバスケットボール協会の定めるところによる。

卓球競技

- 2016年開催予定の世界選手権大会でシングルス・ダブルスベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト2の選手
- 以上の選手を日本ろうあ者卓球協会の管理する2016年度ランキングで上回る選手

陸上競技

- 2016年の世界選手権大会で決勝進出の選手
- 上記大会4位記録又はソフィア2013大会の3位記録を超える公認記録を2016年9月から2017年5月までの間に出した選手

オリエンテーリング競技

- 世界及び国内の公認大会で上位成績を持つ選手

テニス競技

- 2014年ドレセマエレ杯シングルス・ダブルス ベスト4の選手
- 2015年の世界選手権大会でシングルス・ダブルス ベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト2の選手
- 上記選手をICSD テニス TD の定める2016年度ランキングで上回る選手

ビーチバレーボール競技

- 2016年開催予定の世界選手権大会ベスト4のペア選手
- 2016年度もしくは2017年度初めまでに国内で8ペア以上による大会を実施し、その大会で優勝したペア

バドミントン競技

- 2015年の世界選手権大会でシングルス・ダブルス ベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト2の選手
- 上記選手を日本ろう者バドミントン協会の管理する2016年度ランキングで上回る選手

水泳競技

- 2015年開催予定の世界選手権大会でベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト2の選手
- 2016年開催予定の世界選手権大会でベスト4の選手
- 上記選手の記録を超える公認記録を2016年度中に出した選手

ボウリング競技

- 2015年の世界選手権大会でベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト2の選手
- 上記選手を日本ろう者ボウリング連合の管理する2016年度ランキングなどで超える選手

空手競技

- 2016年開催予定の世界選手権大会でベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト2の選手

柔道競技

- 2016年開催予定の世界選手権大会でベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト2の選手

自転車競技

- 2016年開催予定の世界選手権大会でベスト4の選手
- 2015年第8回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト2の選手

各競技チームのスタッフ

- ①デフリンピックで定める各競技につき最低1名のスタッフを保証する。
- ②選手4名毎に1名のスタッフを保証する。
- ③スタッフにどの役割を振るかは各競技チームが決定する。ただし、監督とトレーナーを必ず置くこと。尚、監督およびトレーナーは下記の条件を備えている事を条件とする。

◎監督

- ★ 国際競技大会に出場および監督経験を持ち、国際大会戦略に熟達していること。
- ★ かつマネジメント及びコーチングについても一定の経験を有していること。
- ★ デフリンピック大会規則及び該当競技規則に熟知していること。
- ★ 代表選手団本部と連携できること。

◎トレーナー

- ★ 国際競技大会への帯同経験を持ち、選手のコンディショニングに熟達している事。

- ④保証人数を超えるスタッフの配置を認めることもあるが、各競技協会が経費を負担することとする。

以上